

R4北いわて・三陸地域活性化推進研究

「がん医療に携わるジェネラリスト看護師を支援する SNS を活用した『がん看護最新知識 update』システムの構築」

研究代表者：看護学部 細川 舞

共同研究者：看護学部 遠藤良仁, 内海香子, 及川紳代, 藤澤由香, 高屋敷麻理子, 金子香奈子
総合政策学部 新田義修

<要旨>

本研究では、北いわて・三陸地域で活躍するジェネラリスト看護師に対して、SNS を活用した「がん看護最新知識 update」システムを構築し、学習支援をすること、およびその効果を明らかにすることを目的とした。SNS (LINE) を活用した学習支援のための研修会情報の広報と、web および現地での学習会を開催し、参加者の学習に対するニーズや困難感についてインタビュー調査を実施した。その結果、「がん看護を含み看護実践全般に関する困難感」6つと「がん看護を含み生涯学習全般に関する学習ニーズ」8つがあることが明らかとなった。北いわて・三陸地域でがん医療に携わるジェネラリスト看護師は、学びや交流の機会が得られにくく、新しい情報や知識へアクセスし、スタッフ間の共通事項として update し続けるシステム構築とスタッフへの動機づけに課題があることが示唆された。

1 研究の概要 (背景・目的等)

岩手県は広大な県土を持つが、その約 77%は森林であり、人口は盛岡医療圏に集中している。大規模病院(500床以上)も盛岡医療圏に2施設のみであり、医療資源は盛岡医療圏に集中しており、北いわて・三陸地域との医療格差が懸念される。がん患者は、盛岡医療圏でがん急性期の治療を受け、療養を居住地近隣の施設で行うことが多い。これらのがん患者の療養を支えるためには、看護師の支援が不可欠であり、様々な形で療養するがん患者を支えるための看護スキルが求められる。看護の質向上のためのリソースとして、専門看護師、認定看護師がいるが、岩手県では盛岡医療圏に集中している。へき地医療に携わる看護師には学習ニーズがあるにもかかわらずその機会やアクセスに困難がありニーズを満たすことが出来ていないことは先行研究からも明白である。北いわて・三陸地域で働く看護職への学習ニーズを満たすために、汎用性の高い SNS (LINE) を活用し、知識のアップデートを図ることができるようなシステム構築し、学習支援をすること、およびその効果を明らかにすることを目的とした。

2 研究の内容 (方法・経過等)

1) 汎用性の高い SNS (LINE) を活用した広報 (LINE 公式アカウントの開設)

学習会の情報を得る手段として、スマートフォンで汎用性の高い LINE を使用して公式アカウントを設置する。研修会情報や申し込みなどを、いつでもどこからでも自分のスマートフォンで実施できるシステムを構築した。公式 LINE に登録していない看護師にも研修会情報を届けられるように、県内の約 250 施設の病院、訪問看護ステーション等に研修案内を郵送した。研修会の申し込みにはスマートフォン等からアクセスのしやすい QR コードを添付し、google form を使用

した。

2) 研修会の企画 (表 1)

がん看護に携わる看護師にニーズの多いテーマである、がん患者の語り、がん患者の症状マネジメント、看護倫理、スキンケアなどをテーマに、web 研修会：5回、現地研修会：3回を企画した。

3) 研修会参加者へのインタビュー調査

Web および現地研修会に参加した看護師の中からインタビュー調査に同意の得られた参加者を対象に、「がん看護を含み看護実践全般に関する困難感」と「がん看護を含み生涯学習全般に関する学習ニーズ」についてインタビューを実施した。

4) データ分析

参加者の語りの中からテーマに関連する内容を抽出し、類似する内容毎にカテゴリを作成した。

表1. 令和4年度研修会の概要

開催方法	テーマ
Web 研修会	<ul style="list-style-type: none">がん患者家族の語りがんと女性のセクシュアリティ疼痛マネジメントの基本CNS と学ぶ看護倫理呼吸困難を抱える患者の看護
現地研修会	<ul style="list-style-type: none">スキンケア基礎セミナー (二戸地区、宮古地区)がんと女性のセクシュアリティ (八幡平地区)オンライン研修に参加するためのPC等の設定や操作手順

3 研究の成果

本研究は、北いわて・三陸地域で働く看護師の学習ニーズを支援するためのシステムを構築し、学習支援をすること、およびその効果を明らかにすることを目的とした。

1) 汎用性の高い SNS (LINE) を活用した広報

LINE 公式アカウントの登録者数は 18 名であった。研修会チラシの配布と同時に、LINE への研修会情報も申込 URL とともに投稿し、研修会への参加を促した。しかし、研修会アンケート結果からは、「研修会のお知らせは所属施設にチラシで広報」を希望する声も多く、登録者数増加にはつながらなかった。

2) 研修会の実施 (図 2, 3, 4)

表 1 に企画した研修会 (web:5 回, 現地:3 回) をすべて実施した。すべての研修で県内外のがん看護専門看護師, 慢性疾患看護専門看護師, 大学教員が研修会講師となって実施した。Web 研修会では、延べ 71 名の申し込みがあった。研修会の感想は、「痛みの看護について、より詳しく知識を持って患者様に対応することの重要性を学ぶことが出来ました」(第 2 回), 「今まで倫理が漠然としていたものが普段業務の中で考えていると思うと身近に感じることができました」(第 3 回) などといった感想が寄せられた。また、web での研修会開催に関しては、「子どもがいる状況でも受講しやすい」、「自宅または職場から気軽に参加できるから」、「子どもがいるため、現地に赴くのが難しい」と今後も web での開催希望がほとんどであった。現地研修会では、延べ 11 名の参加があった。アンケート結果から、「オンラインより、ニュアンスがよく伝わります」、「人数が多すぎない事。講習を受ける側のペースにあわせてくれる。実施が多かった」など、現地開催ならではの理由で満足度が高い結果となった。

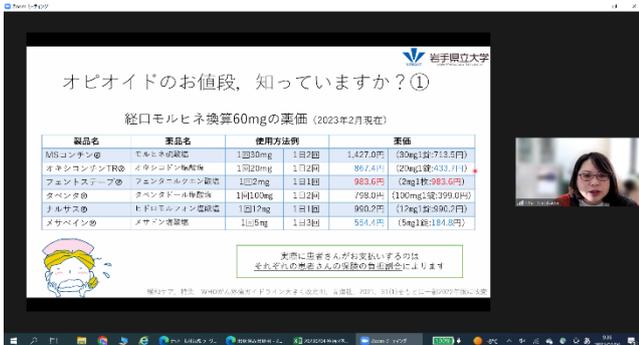


図 2 web 研修会の様子①



図 3 web 研修会の様子②

3) 研修会参加者へのインタビュー調査

(1) 対象者: 3 名の看護職がインタビューに参加した。参加者

の所属は、訪問看護ステーション 2 名、看護小規模多機能施設 1 名であった。また、インタビュー時間は 37~51 分であった。

(2) がん看護を含み看護実践全般に関する困難感: 語りを通して次の 6 つの困難感が抽出された。【がん看護に関する研修会の少なさ】、【看護手順の刷新の遅さ】、【専門職から学べる機会の少なさ】、【常勤職員の少なさと研修参加にあたり他のスタッフへの遠慮】、【学ぶことへの消極性】、【スタッフや自身の精神的な悩みは相談したくても相談できない現状】であった。

(3) がん看護を含み生涯学習全般に関する学習ニーズ: 語りを通して、内容面に関する 4 個と学習方法面に関する 4 個の 8 つの学習ニーズが抽出された。すなわち、内容面については【最新のがん治療】、【基礎的知識】、【実践事例】、【他専門職 (リハビリ, 栄養士) の考え方】、学習方法面については【研修時間は 2 時間から半日程度の開催】、【近隣施設の参加者間の意見交換】、【介護職等, 多職種と共に学ぶ】、【集合と遠隔のハイブリッド】であった。



図 4 現地研修会の様子

4 今後の具体的な展開

へき地でがん医療に携わるジェネラリスト看護師の困難感から、看護師に学びや交流の機会が得られにくく新しい情報や知識へアクセスし、スタッフ間の共通事項としてアップデートし続けるシステム構築とスタッフへの動機づけに課題があることが示唆された。しかも、学習ニーズとして介護職はじめ多職種と共に学ぶことが挙げられていることから、職種を越えた学びの共有が必要とされていることが示唆された。そして、スタッフ数や時間的制約などから現地からの移動を最小限に抑え、1 回あたりの時間を短時間に区切り、近隣の施設や多職種で疾患を越えた幅広い内容と個人の思いや悩みを表出し共感しあえる機会となることが学びの継続のためには重要な要素となり得る。

以上から、オンライン学習を併用すると共に多職種や近隣の施設間の交流を促進し、その地域を共に支える意識を共有しながら、より実践的な情報交換と相互の触発を促進する仕組みづくりが有効ではないかと考える。

5 その他 (参考文献・謝辞等)

本事業の取り組みで研修会開催にご協力いただいた講師の皆様、研修会に参加いただいた皆様、インタビュー調査にご協力いただいた研究参加者の皆様に深謝いたします。